

関東学生馬術争覇戦 10年ぶりに優勝



関東学生馬術争覇戦が5月11、12日にJRA場事公苑で行われ、専大はこの大会10年ぶりの優勝を遂げた。

「みんな息が合っていた」と相田一善主将(商4・宮城農高)が言うように、今大会はおのおのが自分の役割を果たしていた。中でも、カデュセ号騎乗の天羽美穂(経済4・富川高)は、勝つか負けるかの瀬戸際の勝負でもプレッシャーに負けない力強い騎乗でチームの優勝に貢献。

また、天羽は全試合ノームスで最優秀選手にも輝いた。

試合後、相田主将は「優勝は本当にうれしい。ここで“テング、”にならず、練習あるのみです」と気持ちを今月27日～30日に行なわれる関東学生馬術大会に切り替えていた。また期待に応えてくれるに違いない。

〔6月15日/ニュース専修15面〕

アメフト・川崎シリーズ 宿敵 法大を下す



5月19日に川崎球場で行なわれたアメリカンフットボールの川崎シリーズ3戦目で、専大は宿敵法大を14-6で下し、法大戦では10年ぶりとなる勝利を飾った。

前半はチャンスを生かしきれなかったが、後半からは流れを引き寄せた。

第3Qでは、残り1ヤードから工藤健一(商3・日体荏原高)がTDを奪い、久野孝弘(法4・花咲徳栄高)からの高めのパスを尾

崎雄樹(経営3・箕面自由学園高)がキャッチしTDするなど、スーパープレーが見られ、第4Qも法大を押さえて試合終了となった。

しかし、6月1日に同球場で行なわれた中大戦では、10-10の引き分け。「個々にいいところはあったが、法政に勝ったおごりがあった」と平野恭雄監督は語った。

これで春のオープン戦は3勝1分けで終わった。

(北野いづみ・文3)

[6月15日/ニュース専修15面]

【OBOGコーナー】7戦全勝で序ノ口優勝



相撲部OBの片山伸次さん(平14商)が、大相撲夏場所(5月12～26日・両国国技館)で7戦全勝し、序ノ口優勝を飾った。

片山さんは卒業と同時に阿武松部屋へ入門。3月大阪場所の前相撲で「片山」の四股名で初土俵を踏み、夏場所から序ノ口へ昇格した。

「相撲に対する考え方ですかね」。プロになって一番変わったことは?の質問には即答した。「勝つことへの思いが一層強くなった」という。髻を結うために伸ばしている散切り頭にも、すでに力士としての風格さえ感じる。

今回の優勝で来場所(7月7～21日・名古屋)から昇格して序二段の上位に番付される予定。「年内には幕下まで上がりたい」と抱負を語る片山さん。自分で決めた道を力強く歩く姿に、今後の大成を予感せずにはいられない。

(上原深音・文4)

[6月15日/ニュース専修15面]

全日本学生パワーリフティング 重光康之が優勝



全日本学生パワーリフティング選手権が5月26日、埼玉大学第2体育館で行われ、82.5kg級に出場したボディビル部の重光康之(経済1・常総学院高)がトータル540kgで優勝を果たした。

関東学生大会(5月11日、12日・東京大学体育館)で優勝した重光は、全日本学生の大舞台でも1年次ながら上級生に引けを取らない堂々とした戦いぶりを見せた。

「今大会は自己記録を下回る結果での優勝だったので、次回は納得のいく結果で優勝したい」と語る重光。関東学生新人戦に向けて、チャンピオンは今日もその体に磨きをかける。

(宮川亮佑・文3)

[6月15日/ニュース専修15面]

秋田市役所と引き分け 尾鹿市招待ラグビー大会

秋田県・男鹿市招待ラグビー大会が6月2日、男鹿市総合運動公園陸上競技場で行われた。専大は東北の古豪・秋田市役所と対戦。6トライと挙げ、34-34の引き分けと善戦した。

専大は序盤、仕掛けの速い攻撃でリードするが、前半32分にトライを奪われると、その後もハーフタイムを挟んで4連続トライを許し、14点差をつけられる。

しかし、相手の疲れが見え始めた後半33分、自陣に攻め込まれたところをインターセプトし、CTB笹渕稔(経営3・秋田工高)が60メートル独走トライを決める。試合終了間際には相手ペナルティをきっかけに果敢に攻めゴール前まで前進し最後はSH工藤祥司(商2・伏見工高)がトライを挙げ同点に持ち込んだ。

(青柳 直子・文3)

[6月15日/ニュース専修15面]